

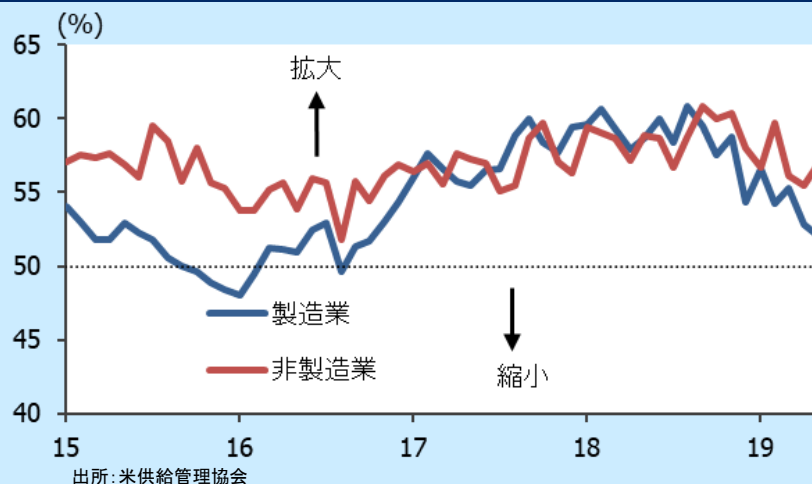
米国：ISM景況指数（2019年5月）

—製造業の景況感は2016年10月以来の低水準—

MRI Daily Economic Points

June 6, 2019

図表1 総合指数



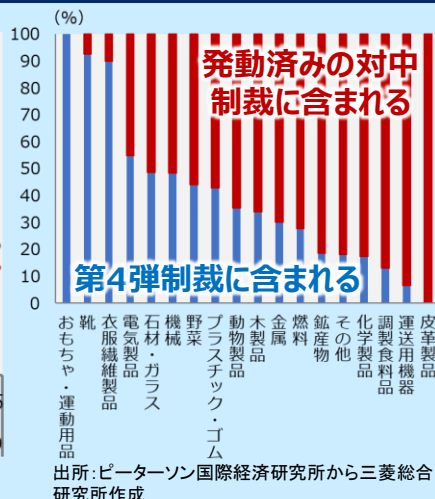
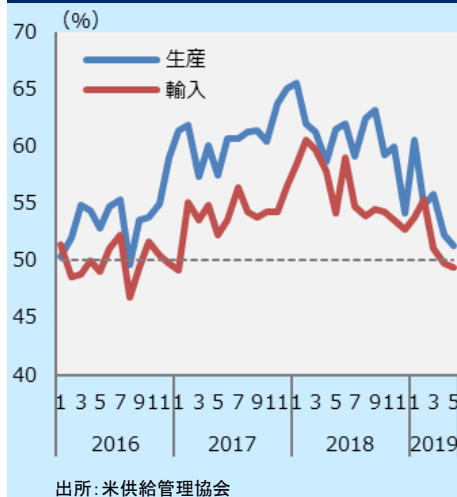
評価ポイント

今回の結果

- 5月のISM製造業景況指数（総合、6/3公表）は、52.1と前月（52.8）から低下し、2016年10月以来の低水準となった。
- 指数を構成する5項目のうち、新規受注（52.7）と雇用（53.7）の2項目のみが上昇。低下した3項目のうち、生産（51.3）は2016年8月以来の、輸入（49.4）は2017年5月以来の低水準だった（図表2）。
- 5月のISM非製造業景況指数（総合、6/5公表）は、56.9と前月（55.5）から上昇。3カ月ぶりの上昇だった。
- 指数を構成する4項目のうち、3項目が上昇した。特に、ビジネス活動（61.2）と雇用（58.1）が大きく上昇し、全体を押し上げた。業種別では、18業種のうち16業種が50を上回り、幅広い業種で活動拡大が継続した。

図表2 生産指数と輸入指数

図表3 製品別制裁関税対象割合



基調判断と今後の流れ

- 企業の景況感は、製造業・非製造業ともに活動の拡大を示す50を上回っているが、特に製造業の指数は低下傾向にある。背景には、①米中貿易摩擦の影響顕在化や、②米中対立のさらなる激化への懸念があるとみられる。先行きも、製造業は上記①、②を背景に、軟調な動きを続けると予想されるほか、非製造業も後述のトランプ政権による対中制裁の動向に左右されうる。
- 下振れリスクは、米中貿易摩擦の一段の激化である。米政権は現在、発動済みの対中制裁に含まれない全中国製品3250億ドル相当の関税引上げ（第4弾制裁）を検討している。その制裁対象には、おもちゃや運動用品、靴や衣料品といった消費財が多く含まれる（図表3）。この制裁までもが実行に移された場合、小売業を中心に悪影響が及び、堅調な推移を継続している非製造業の景況感も悪化しうる。